

ヘミングウェイの中編・短編を読む

「失われた世代」の文学

講座内容

本講義では、「失われた世代(Lost Generation)」を代表する作家アーネスト・ヘミングウェイの作品を題材に、第一次世界大戦後の社会や価値観の変化を考察する。ハードボイルドな文体による英文とその対訳を精読しつつ、ヘミングウェイの代表作である『老人と海』および『キリマンジャロの雪』を含む四作品をさまざまな視点から作品を読み解いていく。

期 間	5月9日～7月18日	受講料	8,000円
曜 日	土曜日	定 員	20名 ※最少催行人数8名
時 間	10:00～11:30	会 場	関内アカデミック・リサーチセンター
回 数	全4回	持ち物	筆記用具、辞書
教 材	講師が配布資料を用意します。		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ●この講座は5月1日(金)までに中止の連絡がなければ開催となります。 ●新聞記者をしていたヘミングウェイの文体は、読者に伝わりやすい簡潔な英語表現が多用されています。比較的容易な英文で描かれていることから、英語を読むのは久しぶりという方でも、物語世界に入っていくやすいと言えます。英語が苦手という方でも、楽しんで受講できるように対訳を用意しておきます。 		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容	担当講師
1	5月 9日 (土)	「死を待つ一日」 ("A Day's Wait," 1933) 本作は、父と子の関係を主題に、ヘミングウェイならではの簡潔で凝縮された文体によって語られている。物語自体は単純であるものの、随所に独自の省略表現が用いられており、その簡潔さの中に深い意味が込められている。無駄を削ぎ落とした言葉のリズムを通して物語の世界を味わいながら作品を読み進める。	倉林 秀男
2	5月30日 (土)	『老人と海』 (The Old Man and the Sea, 1952) 最後の場面 ヘミングウェイの代表作『老人と海』の最終章を題材に、英語表現の特徴を詳細に解説する。登場人物の視線の動きや空間的な広がりや描写に注目することで、作品の主題理解をより一層深めていくことを目的とする。	倉林 秀男
3	7月 4日 (土)	「キリマンジャロの雪」 ("The Snows of Kilimanjaro," 1936) 本作はアフリカの大地を舞台に、アメリカ人作家ハリーが脚の傷を放置した結果、壊疽に冒され死の瀬戸際に立たされる姿を描く。彼の意識は現在と過去を行き来し、記憶と現実が交錯する中で物語は多層的な広がりを見せる。雄大なキリマンジャロの頂を背景に、死を目前にした人間の内面を深く読み解いていく。	古谷 裕美
4	7月18日 (土)	「蝶々と戦車」 ("The Butterfly and the Tank," 1938) 1937年のスペイン内戦中、マドリッドで実際に起こった事件に基づく短編を取り上げる。「蝶々」というモチーフは、悪ふざけをする男や戦争の犠牲者、さらには語り手自身を象徴するなど、多層的な意味を帯びる。ヘミングウェイのジャーナリズム活動に触れつつ、作品に込められた象徴性と物語の解釈を考察する。	古谷 裕美

講師紹介



倉林 秀男(くらばやし ひでお)

杏林大学外国語学部教授 博士 (英語学)

専門は文体論。主に文学作品を言語学的に読解することで作品理解に結びつけることについて研究をしている。著書(共著含む)に『ヘミングウェイで学ぶ英文法』(アスク)、『ヘミングウェイで学ぶ英文法2』(アスク)、『英文解釈のテオリア』(Z会)、『名作で身につく心に残る英単語』(くろしお出版)などがある。



古谷 裕美(ふるたに ひろみ)

本学建築・環境学部准教授 博士 (文学)

20世紀アメリカ文学研究を専門とし、ジェンダー・セクシュアリティ研究という観点から、身体表象分析を行なっている。単著は『ヘミングウェイと逸脱した身体—権力・棄却・ジェンダー—』(関東学院大学出版会)があり、共著には『モダンの身体—マシーン・アート・メディア』(小鳥遊書房)、『ヘミングウェイ批評—新世紀の羅針盤』(小鳥遊書房)などがある。